

羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

⑪

理して食べます。「魚を食
べない子は釣らないで見
学。釣る子は自分で食べ切
れる量だけ釣る」というの
が「ちゅーりっぷ流のお約
束」です。

ハゼを釣る時の投げ釣り
は、こどもたちにとっては
なかなか大変です。餌を針
につけるだけでも大騒ぎ。
順番にさおをたらし、いよ
いよ釣りの始まりです。根
がかりしたり、釣れる直前

からはずしてバケツに入れ
るまでが大変です。ピチピ
チと跳びはねて両手からこ
ぼれ、土の上で泥だらけに
なった魚と格闘します。

釣った魚は、こどもたち
自身が腸を出して焼き魚や
天ぷらに。元気に手の中で
跳びはねていた魚がいきな
り、「食べ物」に変わります。
そんな魚を前にして、先生
が質問します。「食べないで
ごみ箱に捨てたらどう?」

「ダメ!」とこどもたち。
「さっきまで元気だった魚
の命を粗末にできない!」

飯を食べる前の「いただき
ます」という言葉が、本当
は「命をいただきます」と
いう意味であることを理解
していきます。魚を食べる
ことは、自分の命の中に魚
の命を取り込み、自分の中
で生かすことです。

「生きる」とは、たくさ
んの「命」に支えられてい
るということ。大きな魚は
小さな魚の命に、小さな魚
はさらに小さな魚やプラン
クトンの命に支えられてい
る。人間もまた、たくさ
んの命に支えられて生きて
いることを、こども

命いただきます

食の尊さ釣りにして実感

もたちは身をもつ
て学ぶのです。

・ちゅーりっ
ぷ」は、六月
のお泊まりで
ニジマスやアマゴを釣る
「釣り堀」と、秋の太田川
河川敷での「ハゼ釣り」を
恒例行事にしています。
釣った魚は自分たちで料

で獲物に逃げられたりと思
うようにいきません。何と
か、赤ちゃんハゼをゲット。
「釣れた、釣れた」と大喜
びはしたものの、ハゼを針

と思うからです。そして、
「食べない人は釣ってはい
けないよ」という「お約束」
の意味を理解し、「今度は
食べるから、釣ってもいい
?」などと先生に聞くよう
になります。

こどもの自殺が後を絶た
ない今、「命は命の支え合
いによって成り立ってい
る」ことを、機会あるたび
に伝えていきたいと思っ
ています。

こどもたちは、「釣り体
験」を繰り返すうちに、ご

(ふれいすくーる・ちゅー
りっぷ) 広島市西区 園
長)



先生と、釣ったばかりの魚をさばくこどもたち。「いただきますって、命をいただきますって意味なんだね…」(園提供)